

理事随想



お正月

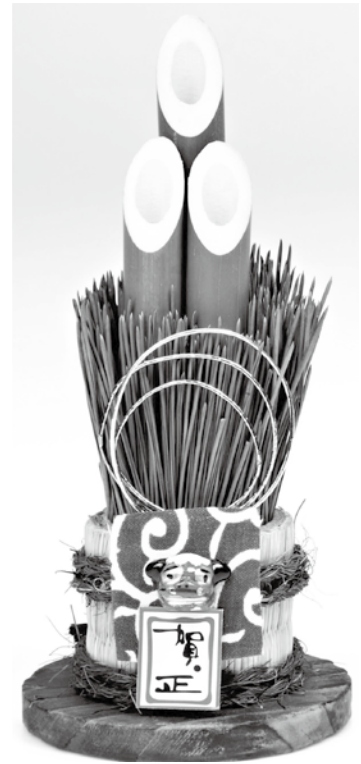
静岡県電気工事工業組合
副理事長 天野 祐介 (浜松支部)

お正月は歳神様やご先祖様が、我が家にやってくるとても大切な日です。

お正月飾りには門松、しめ縄、玉飾り、破魔矢、鏡餅、羽子板などがあります。中でも、現代に色濃く受け継がれているのが門松、しめ縄、鏡餅ではないでしょうか。松の内という言葉をご存じでしょうか。松の内と深く関係がある歳神様についての認知度は20代では6パーセント程度だということです。

お正月はそもそも歳神様をお迎えしてお祀りするためにあります。歳神様は初日の出とともに現れるという言い伝えから、日本では昔から初日の出をととても重要な物と位置付けてきましたし、中でも歳神様は高い山から下ってやってくるという話から山の上で見る初日の出を「ご来光」といって大切にしてきました。また門松は歳神様が迷わないようにと目印として家の前に置く物です。さらに鏡餅は家に入ってきた歳神様がそこをよりどころとして再び山に帰る日までいらっしゃる場所となります。鏡開きの日には歳神様の力が宿ったこの鏡餅を家族で食べることで1年を健康に暮らせるといわれているのです。歳神様の由来に関しては諸説あります。

まず一つ目は、歳神様は神道の神様と言われその数は八百万に及ぶといわれています。神道とは他宗教のように唯一の神の存在を信じる物ではな



門松

くて万物に神様は宿るという考え方で山や川、気象、森、野生動物といった物を崇拝する物です。

二つ目は、日本は古来から農耕を行っていたことから年の初めにその年の豊作を願うため、歳神様を「穀物神」として祀ってきました。歳神様のとしは「穀物」、主に稲作が語源となっていることから歳神様は稲の豊作をもたらす神様として日本では昔から大切に扱われていたとされています。

三つ目は家を災いから守ってくれる先祖の霊という説です。二つ目と三つ目は庶民の暮らしに根付いた物ですからこの二つを合わせた物が歳神の由来として最も有力とされているようです。歳神様は初日の出とともに山から下りてきて各家にやってくると言われていています。歳神様を迎えるにはまずはお正月前に大掃除を始めましょう。日本では昔から12月13日を「すす払い」として家の中の塵や埃を払う行事が行われてきましたが現在は13日にこだわらず年末が近くなってきたら掃除を始める方も多いようです。又は、神棚のみを13日に掃除をするという方もいらっしゃいます。そして12月も最後の週になってきたらお正月飾りを飾り始めます。門松、しめ縄、鏡餅などがこれにあたりますが、できれば28日には出して飾ってください。29日は9が苦を連想させるため避けるべきですし、31日では「一夜飾り」といって歳神様に失礼に当たります。しめ縄はそれがお正月に関する縁起物だというのはわかっているとしてもしめ縄やしめ飾りを飾る理由については実はよく知らないという方が案外多いのではないのでしょうか。

お正月を迎える準備としてしめ飾りを買ってはみたものの家のどこに飾ったらいいいのかいつからいつまで飾ったらいいいのか、飾り終わったらどうしたらいいのかわからない事がたくさんありませんか？また最近では、そうした伝統行事をしないという方



見附天神としめ縄

も増え、しめ縄やしめ飾りをよく知らないという人も多く見受けられます。そもそも、神社で見かけるしめ縄と、家に飾るしめ縄やしめ飾りには何か違いがあるのでしょうか。しめ縄の由来はこんな神話が元になっているといわれています。ある日、天照大神（あまてらすおおみかみ）は弟である須佐之雄命が悪さばかりをすることに怒ってしまい天の岩屋へと隠れてしまいました。天照大神は太陽の神であり、その姿を隠してしまったため世の中が真っ暗になってしまいました。



どんど焼き

これに困った八百万の神様は何とか天照大神を岩屋から連れ出すために岩屋の前で酒を交わし踊り出したのです。その騒ぎに何かと思った天照大神が岩屋からそっと身を乗り出して様子を伺いに来たときに一斉に神様たちは岩戸を閉め再び天照大神が岩屋に逃げ込まない様にとしめ縄で岩戸を縛ってしまったといわれています。しめ縄は神様が宿るとされる場所に飾ります。神社はもちろんですが山にある大きな岩や、巨木、海の奇岩、湧水池などにしめ縄が飾られるのには神様が宿っているとされているからです。また、しめ縄は不浄なものや災いをもたらす物が入り込まないように结界を張る意味で飾る場合もあります。神社へ行くとよくしめ縄が張り巡らされている事がありますが、これはしめ縄より内側は神の領域であると示しているためで場所によっては足を踏み入れることを禁止していることもあります。

しめ飾りは、しめ縄に願いをこめて縁起物の飾りを付けたのが始まりと言われていています。神社のしめ縄のように自分の家も神様を迎えるのにふさわしい場所だということを示すためのものであり、または天照大神の話になぞらえて、一度家の中に入った神様が外へ出て行かないようにするためのものだともいわれています。さらにしめ飾りに使われる飾りにはそれぞれの意味があり、「橙（だいだい）」は、代々繁栄しますように「裏白」は、

裏表のない清らかな心で年を過ごせますように「ゆずり葉」は、子孫が途絶えないように「昆布」は「喜ぶ」を表しているといわれます。しめ飾りを飾る場所は神社と同じ理由で神様が宿るとされる場所や神様に留まって欲しいと思う場所に飾ります。例えば神棚は神様を祀るための場所ですからそこにしめ飾りを飾るのは当然の事ですし神様が入ってきやすい様に玄関先に飾るのもとても多いでしょう。また神様は水場に宿るとされているので台所やトイレなどの水周りや厄除けの意味をこめて自家用車バイクに飾る方も増えています。しめ縄やしめ飾りは新しく年が明ける前に飾ります。もっとも多いのが25日から28日ころです。しめ縄やしめ飾りは松の内が終わる頃に外するのが良いとされています。松の内とは門松を飾っている期間で元々は1月15日までを指していました。しかし1月11日の鏡開きの時にもまだ門松を飾っているのはおかしいと関東地方では1月7日に松の内を早めそれに併せてしめ縄などの正月飾りを外すようになったとされています。しかし関西地方では昔のまま1月15日にしめ縄やしめ飾りを外す地方も多いようです。そして外したしめ縄やしめ飾りは1月15日に神社で行われる「どんど焼き」に出して処分するのが一般的です。「どんど焼き」に行くことができないという場合は通常のごみとして扱いますが神様に関する物なので、できれば紙に包んだり他のごみと区別するなどした方が気分的にすっきりするのではないのでしょうか。しめ縄とは神様と深く関係のある縁起物だということがおわかりいただけたかと思います。勿輪、明確な理由を知らずともしめ縄を飾ってお正月を迎えることは可能です。しかし、しめ縄の由来や意味について詳しく知ることによって新年を迎える気持ちが引き締まったという方もいらっしゃると思います。

物事には意味をしっかりと知ることによりそれに対して真摯な態度で向き合える場合が多いと思います。特に日本古来の、伝統的な行事というのは私たちの先祖が積み重ねてきたように、我々もそしてこれからの未来を担う子孫もきちんと意味を知って取り組むことが大切なのではないかと思えます。

毎年、毎年何気なく飾っているしめ縄やしめ飾りについていろいろな文献等を参考にさせて頂きました。